桂の木

桂の木はたたら山内では特別な意味を持ち、たたら製鉄の守護神である金屋子にちなんで神聖視されている。毎年春になると、3～4 日の短い間、桂の新芽が夕日に照らされて赤く輝いて見える。これは、たたら製鉄が 3～4 日かけて燃え盛る炉の手入れをする工程を彷彿とさせる。

金屋子は天上界から降臨し、播磨国(現在の兵庫県)にたどり着いたという伝説がある。そこで人々に鍋や釜の鍛造を教え始めた。しかし、住むにふさわしい山が見つからなかった。白鷺に乗って各地を巡った金屋子は、やがて菅谷製鉄所の北東約 25 キロの山中にある桂の木に降り立った。金谷子は遭遇した猟師に炉を作るように命じ、たたら製錬の方法を教えたと伝えられている。